# 私が携わった情報システム開発の特徴について

## プロジェクトの特徴

自動車販売会社Ａ社の商談システムの構築を情報システム開発会社であるＢ社が受注し、私がプロジェクトマネージャに任命された。当時稼働中のシステム（以下、旧システム）はシステム開発会社Ｃ社が構築し、ノートパソコン上で動作するシステムとして稼動していた。当プロジェクトはタブレット端末上で再構築することが目的である。繁忙期である年明けから年度末までに稼動させねばならず、工期が厳しいことが予想された。

## 他の情報システムの成果物を再利用した際の再利用の範囲・方法・決定理由

旧システムの設計書とプログラムが再利用の範囲である。旧システムの設計書から、画面定義書などのユーザインタフェースやシステムの実装方法に依存しない範囲を再利用する予定である。プログラムについては、ユーザインタフェース関連のプログラムを除いた、ビジネスロジック部分を新システム用にコンパイルして再利用する想定である。年末までと短納期を求められる中、流用できる部分が大きく開発生産性の向上が見込まれるため決定した。

# 成果物の再利用について

再利用によりコストの低減、開発期間の短縮などの効果が期待できる一方で、再利用する成果物の状況に応じた適切な対策を講じる必要がある。

## 期待した効果

開発生産性向上による工期短縮と開発コスト低減を期待した。期待した効果を得るために再利用を予定している成果物を状況を分析した。

## 有効利用を図る上での課題と対策

1. 分析の結果、旧システムは成果物を再利用することを想定しておらず、適切に構成管理されていないため、容易に再利用できる状態になっていないことが判明した。そのため、顧客であるＡ社から旧システムの開発元のＣ社に対し、保守作業を指示してもらう形で成果物の整備を依頼し、構成管理可能な状態にするように仕向けた。
2. Ｃ社はＢ社からすると競合他社にあたり、Ｂ社から直接Ｃ社に依頼することは難しく、再利用にあたっての支援が受けづらいという課題がある。そのため、システム構築中に必要となるであろう成果物に対する支援内容および支援期間について事前にとりまとめ、顧客を通してＣ社に依頼してもらい合意にこぎつけた。

## 対策の実施状況

私はプロジェクト計画チームに顧客との調整担当を配置し、成果物流用によるコスト低減効果、および開発期間短縮効果を定量的にまとめさせた。またその実現のために必要な前述の①②の具体的な協力依頼について、顧客と調整を実施させた。この結果として合意に至ったので、合意内容に基づき、再利用の範囲、方法、目標とする効果などを、成果物の再利用の方針として取りまとめプロジェクト計画に反映した。

## 特に工夫した点

前述の調整作業が円滑に進むために、私は顧客の経営層に「工期までに完成するには成果物の流用とＣ社の協力が不可欠である」という説明を繰り返し実施した。並行してＣ社に対しても働きかけ、今後の保守作業の観点から協力せざるを得ないような状況を作った。

# 期待した効果について

## 期待した効果の実施状況と評価

生産性に関しては、再利用しなかった場合と比べて３０％の向上効果が得られた。また年末までに予定通りシステムを稼動にこぎつけることができたことから、期待した効果は十分に得られたと考えている。

またプロジェクト期間中に再利用についての支援が必要となった際に、支援をＣ社から適時受けることができ、事前の調整の効果があったと考えている。

## 今後の改善点

他社の構築した知らない成果物の流用であったため努力目標（生産性向上効果５０％）にはおよばなかった。今後類似のプロジェクトがあった際は、再利用対象の成果物を実際に構築したメンバを体制に含めるなどの体制面での工夫も実施し、更なる生産性向上を目指したい。

以上